



福島県 / 裏磐梯にて 4x5 上下カット (2:3) 120ミリ

大判カメラの魅力 (その3)

会長 鈴木 克彦

大判カメラの魅力として、フィルム面積の大小 (4x5, 5x7, 8x10) ではなく、またアオリ操作はその基本原理さえ理解していればあとは場数の問題だとして、これまでは処理されてきました。今回のテーマは、アオリとしての最大の問題はカメラの操作にあるのではなく、「得られる画面に対してどのようなアオリ効果”を期待し、自分の写真を完成させるか」という撮影者の心構え、又はセンスに懸かっているということです。その意味で、撮影者自身のアオリ操作の目標点が定まらない限り、カメラ操作としてのアオリは存在し得ないということになります。

固定レンズのカメラと違い、上下左右前後斜め、と自由自在に動かせることから、昔の写真家からは大判カメラは軟体動物的存在と

も言われておりました。(この項 玄光社「プロフェッショナル カメラとレンズ」より)

1枚の写真を撮るときに、さてどれだけの思い入れでシャッターを切っているか？アオリを意識してフレーミングを整えているか？改めて自問自答している自分を省みています。

心構えとしてはそう思いつつも、「いざ本番」ともなるとそれどころではなく、自然のなんと移ろいやすい景観の流れに押されて、無我夢中で手早く、取りあえず押さえるのが精一杯。前言のアオリ効果がどうの、フレーミングがどうのご託を述べている内はまだまだ半人前。

では、どうする？答えは簡単です。

日常生活の中での鍛錬です。いやしくも大判カメラを扱うものとして、まず第1は大判カメラの目を持って世の中を見続ける鍛錬です。または車を運転しているときに、(脇見運転は危ないですが・・・)「この景観は45あるいは

810でいけるか？」と言った鍛錬、車を降りての風景を見て「この景観をより魅力的に、迫力を持たせるにはどのようなアオリ効果が考えられるか？」といった絵を頭の中で組み上げる。それらの積み重ねで、いざ！と言うときに発揮されるものです。小判、中判カメラと違い、アオリ機構を持つ大判カメラを使うのですから、その特徴を十分に使い切って「大判ならではの」フレーミング、アオリ効果を生かして「納得のいく」作品作りに持って行きたいものですね。これこそが『大判カメラの楽しみ方』ですから。

新年会と見本プリント確認会の報告

運営委員長 田中 明

1月20日に関東と名古屋支部からの参加者を含め17名の出席のもと、新年会を開催致しました。（同封の報告しよを参照下さい）

昼食を摂りながら暫し歓談の後、2時過ぎから堀内カラー末永様にカラー作品の六切サイズ見本プリントを持参頂き、色確認等を4時頃まで行いました。



今回の見本プリントの確認会は作品制作を担当される堀内カラーの末永様に来阪頂きましたので、今回出席された会員は、ご自分の修正希望内容を的確に伝えることが出来たかと思えます。

今回指摘した箇所を修正した後、本番の展示プリントを出力し、次回、**2月17日に『本番プリントの最終確認会』**を行います。出展される会員で会場へ来場頂ける方は、ご自分で出展プリントの最終確認をお願いします。

当日修正しない場合は、以後の修正は行えませんので、この点、ご了解下さい。

写真展の来場者を増やす為にも、今月号に同封の写真展入場券の配布にご協力をお願い致します。ご親戚、ご友人や写真に興味のある方へ、入場券の配布をお願い致します。

神戸展、名古屋展の会場での受付等の当番にご協力をお願い致します。特に今年の神戸展は、初日の午前中に搬入作業を、最終日の午後3時から撤収作業を行いますので、短時間で作業を完了するにはお手伝い戴く人数が必須です。写真展を成功させるためにも、各位のご協力が不可欠となります。

当番頂ける方は、お手数ですが今月号に同封の当番連絡はがきの**当番可能な日、時間帯に○印をつけ、62円切手を貼って投函**して下さい。

2月研究会のお知らせ

研究会担当 垣内 晃

2月研究会を以下の日程で開催しますので、万障繰り合せの上、参加願います。

日時：2月17日（土）13:30～

場所：大阪写真会館 **4階会議室**

内容：

1. 展示プリントの最終確認
2. 連絡事項

2月は2018展カラー作品の展示プリントの最終確認を中心に行います。作品を出展される方で大阪写真会館へ来場頂ける方は、是非ともご出席の上、各自、ご自分の出展プリントの最終確認を行って戴く様、お願い致します。今回のプリント確認が、最終の確認となります。

2月研究会での作品投影はありません。3月、4月は写真展開催のため、研究会はお休みとなります。次回の作品投影・出展作品審査は5月研究会から再開の予定です。